



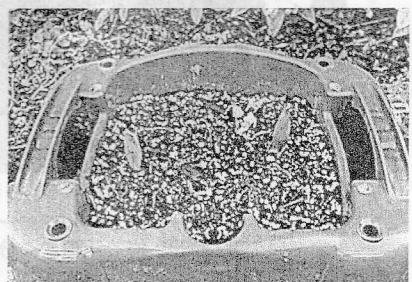
春、遠からじ



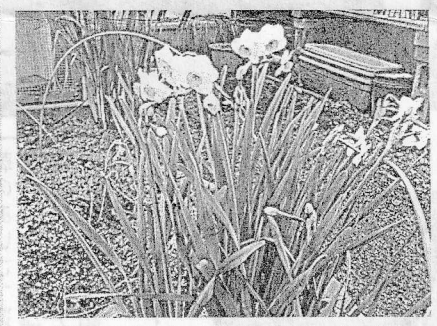
中庭のモクレンの芽は日ごと
にふっくらとふくらんで

124年ぶりに節分と立春が1日早まり、暦の上では春がやってきました。先週の全校朝会では節分にちなんで、昔の人は、心の中にある良くない気持ちや人の力ではどうしようもできない禍を「鬼」と見立て豆まきで追い払った、という話をしました。このところ少しずつ感染者数は減ってきているものの、いまだに新型コロナウイルスの感染は収まらず、いつ収束するともわからない日々。ウイルスとの闘いはまだまだ続きます。豆をまいて一気に「コロナ退治」といきたいところなのですが・・・

学校では、「岡山市新型コロナウイルス感染症予防のためのガイドライン」に沿って、教室の中だけでなく、登下校の際や体育の授業中でも、原則、マスクを着用するよう指導しています。もちろん、息苦しくなった場合は、周りの人と十分距離がとれる場所へ移動してはせずしてよいのですが、友達との距離が近い場合はマスクを正しく着用するよう呼び掛けています。また、手洗いの徹底も感染予防には欠かせませんが、冬場の冷たい水でしっかり手を洗うのは大変です。教室にはエアコン暖房が入っているものの、常時換気が原則のため窓を少し開けており、座席の位置によっては寒いところもあります。子どもたちの生活は不自由でいっぱいです。長引くコロナへの対応に疲れてしまい、「まあこれくらい。」といった「ゆるみ」が感じられる場面も見られます。今一度、気をひきしめてこの大変な状況を乗り切って行かなくてはなりません。



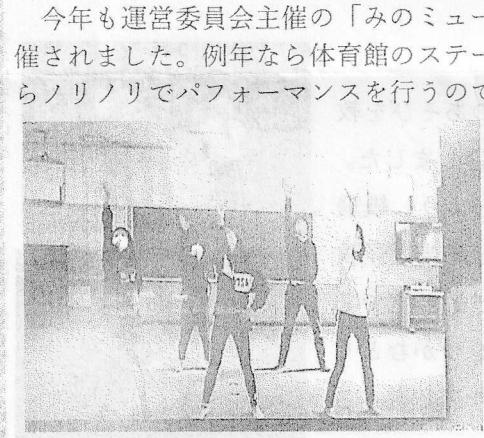
1年生のチューリップも芽がぐんぐん大きく



花壇の水仙はかわいい花をつけ、いい香り

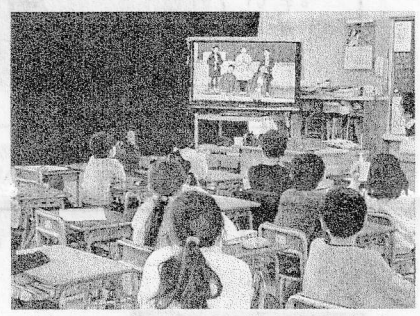
子どもたちには、イギリスの詩人、パーシー・シェリーの詩の一節、「冬来たりなば 春遠からじ」という言葉を紹介しました。「寒く厳しい冬、でも、それは暖かい春もすぐそこまで来ているということ。だから、今は苦しくてもがまんして頑張れば、必ず明るい未来が待っている。」という意味だと説明しました。長く続くコロナとの闘い、でも、「春、遠からじ」です。苦しい日々はまだ続くけれどいつか必ず終わる日がやって来ます。令和2年度の登校も残すところあと30日余。子どもたちと一緒に、トンネルの先の光を見つめて、残り少ない日々を一步ずつ着実に進みたいと思います。

表現するって、楽しい！



颯爽と踊る6年生に交じって先生の姿も

今年も運営委員会主催の「みのミュージックフェス」が1/20・27に開催されました。例年なら体育館のステージで大勢の友達の声援を受けながらノリノリでパフォーマンスを行うのですが、今年は残念ながらビデオ放送での開催になりました。それでも、各学年の有志10組が、ヴォーカルあり、リズムに乗って踊るダンスあり、ソロやグループでの演奏あり、思い思いの表現をたっぷり見せてくれました。中には先生方の出演もありました。運営委員会の児童がそれぞれの発表に素敵なコメントをつけながら進行してくれる姿はさすが高学年。人前で自分を思いきり表現する楽しさ、友達の表現を見る楽しさ、その両方を実感できるステージがすっかり御野小の恒例行事になっています。「来年は私も出たい！」という声が聞こえてきます。



教室のテレビに見入る子どもたち「すごいな。」